

提案企業（団体）名 株式会社ほくつう 福井支社、北陸電力株式会社 新価値創造研究所

テーマ 獣害対策現場におけるDXの活用 ～獣害対策の効果的なアシスト～

実施目的 サルによる「人身被害、生活環境被害（家屋侵入など）、農作物被害」の減少を目的に、悪質なサルの個体（加害個体）の早期捕獲をアシストするためのコア技術となる「検出・識別」AIを開発。

## <今回の実証で実現したいこと>

サルの出没をリアルタイム把握するための「検出AI」と、検出したサルが指名手配写真に登録されている加害個体かを見分ける「識別AI」を開発。

## 将来的な活用イメージ

「検出AI」が出没を把握



「識別AI」が照合



合致

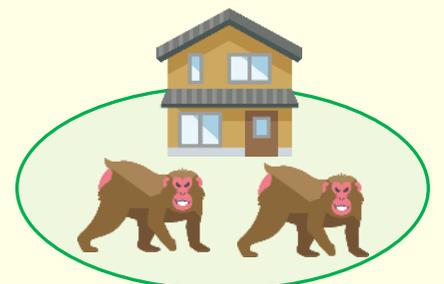
加害現場での撮影画像  
(指名手配写真)



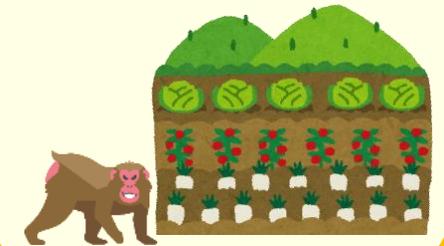
加害個体を検出！

捕獲扉のロック操作をアシスト！！

敷地への侵入



農作物被害



連携先 鯖江市、越前市、南越前町、越前町、池田町

**提案企業（団体）名** 株式会社ほくつう 福井支社、北陸電力株式会社 新価値創造研究所

**テーマ** 獣害対策現場におけるDXの活用 ～獣害対策の効果的なアシスト～

**Q. CO-FUKUIに応募したきっかけを教えてください。**

クマを検出するAIを開発し、今年度からサービス提供を開始しています。

この技術を各自治体へ紹介する過程で、福井県内のほぼ全市町がサル被害に困っていると伺い、これまでに培ったAI技術をフルに活用し、サル被害の減少に貢献したいと考え応募しました。

**Q. CO-FUKUIで実証実験を行ってよかった点を教えてください。**

役に立つAIを開発するためには、開発者・ニーズ元・専門家のチームワークが不可欠です。

今回の実証では、メンバー全員が情熱にあふれ「サル被害を何とか減らそう！」という共通の志を持ってプロジェクトを推進でき、大変やりがいを感じました。

**Q. 本事業で何を実証したのか教えてください。また、その結果もあわせて教えてください。**

3種類のAIを開発し、その精度を確認しました。

①検出AIは、99.9%の精度であり、「実務で十分活用可能なレベル」との評価でした。

②性年齢識別AIと③個体識別AIは、プロには及ばなかったものの、基礎研修を受けた自治体職員と同等以上のレベルであり、「実現可能性有り」との評価でした。

**Q. 今後、実証実験を行った事業をどのように展開していくのか教えてください。**

本実証では、期間が半年というスケジュールを踏まえ、コア技術であるAIの開発に注力しました。

次年度以降は、引き続き、鯖江市をはじめとする自治体の皆さまと連携し、識別AI（②、③）のレベルアップを図っていくとともに、実装と活用範囲の拡大に向けた取り組みを推進いたします。

**関係者のコメント**



鯖江市  
(ニーズ元)

半年足らずの期間で、時間見合いの成果は十分でした。特に、識別AIは高難度で実現は困難との考えでしたが、実装の可能性を感じました。

次年度は、県と連携して国の交付金を活用することで、取り組みを継続する予定です。

今後の実証では、近隣自治体を巻き込み、引き続き協働していく考えです。



野生動物  
保護管理事務所  
(専門家)

本実証では、AI開発に必要な学習データの選別や、活用方法等のアドバイスをしました。

今後も識別AIの更なるレベルアップを図り、実務への活用に向けた取り組みの継続を望みます。

次年度の実証でも、今回同様、AIへの識別ノウハウの継承に協力していく考えです。

本技術が、将来、全国のサル被害対策の一助になることを期待します。